

の清め法



2つの付録は、和の真髄とも言える古神道のエッセンスが凝縮されています。年末の心身の禊ぎにも効果的ですが、普段の生活の中でも、ぜひ実践してみてください。

*七沢さんの記事を、8ページからご紹介しています。

すがすがしい新年を迎えるためのパワフルなお祓い 1 とくさのかむだから 十種神寶を配置した方位相階層大結界

この図形は、古来より伝わる「十種神寶」と私が考案した「方位相階層」を統合したものです。

「十種神寶」をパワフルな「方位相階層」と組み合わせて配置することで、ピラミッドが持つような「まかる返し」の働きを含め、銀河系全体の星座のエネルギーを統合し、太陽系を守る働きを持つ結界の役目を果たします。

《「十種神寶」の意味》

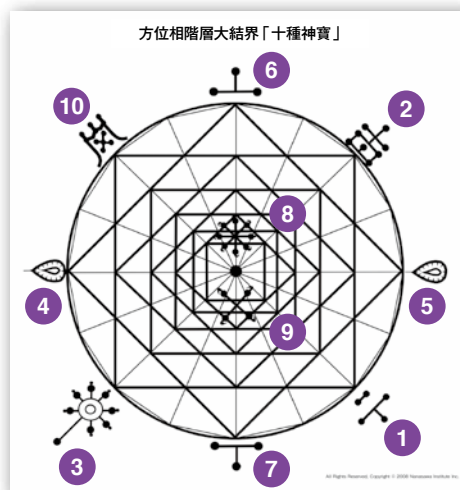
以下のマークは、物部氏の祖神である「饒速日命」が伝えたといわれます。

にぎはやひのみこと

- 1 2 **沖津鏡・辺津鏡**
おきつかがみ へつかがみ
自己と宇宙の真実の姿を過去・現在・未来にわたって写し出す働き
- 3 **八握剣**
やつかのつるぎ
真実と虚実を判断する働き
- 4 **生玉**
いくたま
宇宙創生の意志発現をする働き
- 5 **死返玉**
まかるかへしのたま
宇宙に創造されたものが破壊され、再び元の創造に帰る働き
- 6 **足玉**
たるたま
すべての存在が満ち足りていく働き
- 7 **道返玉**
ちかへしのたま
創造物が完成され、破壊が始まる「転換点」としての働き

《方位相階層とは》

全方位、全周波数、すべての意識階層（肉体、感情、魂、霊、神）を表す、9層からなるパワフルなピラミッド図形。



- 8 9 **蛇比礼・蜂比礼**
おろちのひれ はちのひれ
悪想念を鎮める言霊の働き
- 10 **品物之比礼**
くさぐさのもののひれ
すべての物質を司る言霊の働き

強力な結界として、幅広い範囲に使用できます

《おすすめの使い方》

- 結界を張りたい場所に、テープなどで貼り付ける。（ラミネート加工したり、額に入れてから設置するとなお良い）
- 家の中では、神棚の「雲」の代わりに使う。
- 玄関に入った、すぐの頭の上のあたりに貼る。
- 台所に火の用心などのお札と併せて貼る。（「火難」「水難」「盗難」を逃れるための結界として、お札のように使用）
- 自動車も家と同じように使用できる。車の場合は、ダッシュボードに入れる（事故防止）。
- 外出時に、カバンに入れて持ち歩く。
- 海外旅行の際、事故などのトラブルに巻き込まれないように持つていく。

《使用した方たちの声》

- このマークを入れたお皿を神棚にお祀りしたところ、大変エネルギーが高くなった。そこで神事を行ったところ、さらに燦然と輝きだした。また、結界として貼ることで、家の中が落ち着くようになった。
- 自動車の不注意運転が減った。
- 部屋の東西南北にこのマークを貼ったところ、金縛りからなくなった。

神棚の上の階にリビングなどがある場合

部屋で神棚をお祀りする場合、本来であれば上に何もない、明るくきれいな高い場所に設置するのが良いとされます。しかし、現代では住宅事情によって、神棚のある部屋が1階、その上の2階を生活の中心にしている場合が少なくありません。

- このような場合、神棚の上の天井部分に、「雲」や「空」(※)と墨書きした奉書紙や半紙を貼ると良いですが、代わりに「十種神寶」を貼っても効果的です。

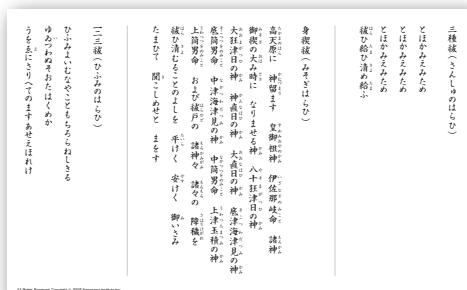
※これは、神棚の上を人が歩いたりすることが「神様を踏みつけては失礼にあたる」という考えから、「雲」や「空」という言葉によって「神棚の上には何もないこと」を表明しています。

はっけしんとう
伯家神道の秘儀継承者
七沢賢治さんが解説

新年を迎えるため

すがすがしい新年を迎えるためのパワフルなお祓い 2 清めのための3つの祓いの言葉

「3つの祓いの言葉」は、白川伯王家に伝わってきた「神拝作法」の伝承の基本となる祓いの言葉であり、唱える者のけがれを祓う作用があります。これに「大祓い祝詞」が加わることで、奏上者自身と、他者を清める祓いの言葉となります。



《 清めのための御祓作法の手順 》

1 「3つの祓いの言葉」を奏上する前に

場を清めるため、空間に結界を張ります。
結界は、付録の「方位相階層大結界」を四方に貼ってください。
※本格的に行うには、部屋の四隅に火打石をカチカチさせながら、打っても良いでしょう。

2 「三種祓」を1回唱えます

起源は不明ですが、「とほかみえみため」は、「遠津御祖神(先祖の神)、十神様、どうか微笑み給え」という意味です。
「とほかみえみため」を3回繰り返すのは、あなたのエネルギー場に、結界を張るためです。

3 「身褌祓」を3回唱えます

いざなぎのみこと
伊弉諾命が黄泉の国から帰った際に、褌が行われました。
その時に出現したのが、十神の神々。
それら「十神の祓いの力」をいただく言葉です。

4 「一二三祓」を3回唱えます

神の働き、すなわち
「宇宙の運行を数霊と言霊を持って自覚、実現する言葉」です。
さらに、「神の働きに感謝する」という意味があります。

5 「三種祓」を1回唱えます

●より本格的な神拝作法

2 拍手の作法を行います

正面を向き正座し、一礼後、
「天津神」を念じ、顔の前で一回拍手、
次に、「国津神」を念じ、みぞおちの前で一回拍手、
「遠津御祖神」を念じ、腰の後ろで一回拍手、
最後に、「産土幸倍神」を念じ
へその前で一回拍手を打ちます。

3 「印」を組みます

●印の組み方

正座をしたまま、両手のひらを自分のほうに向け、
左手の親指が前になるように、
右手の親指と交差させます。
この時、右手の親指は
左手のひらに隠れるように重ねます。
そのまま、丹田の位置に当てます。



4 祓詞奏上を行います

「三種祓」を1回、「身褌祓」を3回、
「一二三祓」を3回、
最後にもう一度、「三種祓」を1回を奏上し、
頭を低くしたまま、無言で祈願・決意表明をします。
息つきはどこで行ってもかまいません。

5 上記「2」をもう一度行って、終了します

- まずは上記の「1」を行い、空間に結界を張ります。※必ず行ってください。
- 座っている位置を、図の①の位置とします。
上方向から見た場合、④の方向が前になります。
- 次に、およそ1mほど後ろの背中側を②として、
まっすぐ前を見たまま、図の順番に従って「とほかみえみため」と3回唱えます。唱える時は、一音一音を各位置に置くイメージで行うと、あなたのエネルギー場に結界が張れます。

さんしゅのはらひ 「三種祓」で結界を 張る手順

応用編

